

第54号（2022-1） 2022年7月15日

大学評価学会通信

目次

◆第19回大会報告	1
◆第19回年次総会報告	2
◆理事会報告	7
◆大学評価学会からのアピール、提案	8
◆田中昌人記念学会賞を受賞して	9
◆研究会の開催について	9
◆第20回大会について	10
◆年報第19号への投稿募集	11

第19回全国大会を開催しました

3月5日、6日の2日間、第19回全国大会を開催しました。対面とオンラインを併用しての開催でしたが、新型コロナウイルスの感染対策のため、会場での参加は報告者と関係者に限定せざるを得ませんでした。それでも、部分的ではありましたが、3年ぶりの対面開催となりました。

初日（5日）は、自由研究（口頭発表）、会員総会、大会シンポジウムが、2日目（6日）は、課題研究（Ⅰ、Ⅱ）と自由研究（ポスターセッション）が開催されました。初日は約50人、2日目は約40人の参加となりました。

初日の午前中の自由研究（口頭発表）では、以下の5つの報告がありました（司会は日永龍彦。敬称略、以下同じ）。

渡部 昭男「重症児者とともに生きる社会をどう語るかー『重度重複障害総論』の講義づくりー」

伊藤 彰浩「寄附行為の分析によるガバナンスの研究」

斎藤 直人「学生自治による「上田女子短期大学附属図書館所蔵『明治期教科書』目録・デジタルアーカイブス制作事業」実践報告」

和田 雅子「女子大学におけるプロジェクト

マネジメント専修の設立と実践～PBL型教育の取り組み事例～」

村上 孝弘「グランドデザイン答申下の大学設置基準の改正動向ー国公立大学図書館協力委員会改正試案の分析」

大会シンポジウムは、「2050年における大学の『基準』と大学評価ーこれまでの30年とこれからの30年ー」をテーマにして開催しました（司会は、小池由美子と瀧本知加）。以下の3報告を踏まえて、議論が行われました。

重本 直利・細川 孝（「大学評価学会の18年ー設立大会から第18回大会におけるシンポジウムを振り返るー」）は、本学会における研究を振り返りました。続いて、石井 拓児（「大学自治と財政基準」）は、大学自治と学問の自由にもとづく大学財政システムという視角から考察されました。最後に、駒込武（「誰が大学を『評価』すべきなのか？ー近年の大学『ガバナンス改革』の動向に即して考える」）は、「国際卓越研究大学」におけるガバナンスとモニタリングについて批判されたうえで、言葉本来の意味での「社会に開かれた大学」のあり方について検討されました。

2日目は午前中に課題研究Ⅰ（教職協働：大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた国際比較研究〈1〉、座長：深野

政之)、午後に課題研究Ⅱ(学生の発達保障から考える教員養成課程の評価(学ぶ権利の実質を保障する大学評価のあり方を探る(2)、座長:西垣 順子)が開催されました。その合間の昼休みには、自由発表(ポスター

セッション)が開催されました。課題研究Ⅰは3報告、同じくⅡは2報告、ポスターセッションは2発表でした。

(文責:大会実行委員長 細川 孝)

大学評価学会 第19回年次総会

2022年3月5日(土) 13:30~ オンライン併用

1. 議長選出(安東正玄、水野哲八)
 2. 第8期顧問の了解 池内了・井上千一・植田健男・碓井敏正・蔵原清人・広渡清吾・細井克彦
朴木佳緒留・三輪定宣・山本健慈・渡部昭男の各氏 (計11名)
 3. 2021会計年度活動総括(案)について
〈学会年報〉 第17号の発刊(2021年8月)／第18号の編集
〈シリーズ本〉シリーズ本第9巻を引き続き作成中
〈研究会活動〉
 - ・第60回研究会 2021年8月29日(Zoomによるオンライン開催)
「主体化教育としてのキャリア教育に教師としてどう関わるか」(報告:荒木奈美会員)
第19回大会のテーマに関する議論(提案:第19回大会実行委員会)
 - ・第61回研究会 2021年12月5日(Zoomによるオンライン開催)
報告1:大野尚仁会員「薬学教育6年制移行と第三者評価」
報告2:久保木匡介(長野大学)「地方大学における公立大学法人化後の管理強化と自治の変容」
〈課題研究・委員会等の活動〉
 - ・「教職協働」部会の活動実績を基盤とした科研費(C)に継続採択(代表:深野／2021-23)。MLを通じた情報交換、大学教育学会課題研究集会(11月)でポスター発表など。
 - ・「青年の発達保障」委員会(2016.5.発足／世話人:西垣・川口)について、MLを通じて情報交換。2021年9月4日に研究会をZoom開催。
 - 〈学会通信〉年2回発行:第52号(2021年7月)、第53号(2022年1月)
 - 〈理事会〉第8期第1回理事会(第7期理事会と合同開催、Zoomによるオンライン開催)2021年3月7日
第1回通信(6/24-7/4)、第2回理事会(8/29;Zoomによるオンライン開催)
第3回理事会(12/5;Zoomによるオンライン開催)
 - 〈会員現況〉会員数:154〔内訳 会員:147 協力会員:7 (団体会員1を含む)〕※昨年より2名減
〈日本学術会議／教育関連学会連絡協議会〉教育関連学会連絡協議会第9回総会に参加(日永副代表)
 4. 2021会計年度決算(案)および監査報告 【総会参考資料】
 5. 2022会計年度活動方針(案)について 【総会参考資料】
 6. 2022会計年度予算(案)について 【総会参考資料】
 7. 第20回全国大会について 岡山理科大学 2023年3月4-5日(土日)(委員長・松下尚史理事)を予定
 8. その他
 - (1)「『大学ファンド』のための大学評価学会からの提案」について
 - (2)「大学評価学会からのアピール:ロシアのウクライナ「侵攻」に強く抗議し、即時撤退を求める」
- ※ 田中昌人記念学会賞受賞者の紹介

2021 年度決算案（2021 年 3 月 1 日～2022 年 2 月 25 日¹⁾）

【一般会計】

	2021 年度予算	2021 年度決算	内容
前期繰越金	1, 256, 995	1, 256, 995	
会 費	690, 000	743, 000	
2021 年度会費	600, 000	743, 000	過年度会費を含む
過年度会費	90, 000		
年報販売売上	100, 000	93, 600	第 16 号
雑収入	1, 000	0	
＜収入合計＞	2, 047, 995	2, 093, 595	
全国大会（第 18 回）	70, 000	66, 579	
開催補助（特別会計へ）	40, 000	40, 000	
予稿集印刷	0	0	
大会案内印刷・送付費	30, 000	26, 579	予稿集送付含む
年 報（第 17 号）	400, 000	383, 904	
編集・印刷費	375, 000	365, 728	印刷費 33 万円他
送付費（封筒等含む）	25, 000	18, 176	
学会通信（年 2 回）	100, 000	48, 276	
印刷費	60, 000	45, 716	
送付費（封筒等含む）	40, 000	2, 560	送付費は別勘定
研究例会（年 2 回）	50, 000	10, 000	
会場費他 ²⁾	45, 000	10, 000	講演謝礼
湯茶等	5, 000	0	
理事会会議費	100, 000	0	交通費、茶菓代
事務費・事務用品費 ³⁾	50, 000	34, 372	学会賞記念品を含む
支払手数料	22, 000	16, 730	郵便振替手数料
委託費	50, 000	14, 000	版下作成ほか委託
会費	10, 000	10, 000	教育関連学会連協
予備費 ⁴⁾	100, 000	93, 060	第 19 回大会予稿集
＜支出合計＞	952, 000	676, 921	
＜次期繰越金＞	1, 095, 995	1, 416, 674	

注 1) 理事会の承認を得て 2 月 25 日付で決算を行っている。

2) 研究例会では非会員を招聘し講演いただいたため、講演謝礼をお支払いした。

3) 事務費・事務用品費には、通信費（3,754 円）を含んでいる。

4) 第 19 回大会の予稿集を事前に全会員に送付するため、予備費から支出した。

5) 第 19 回大会の開催案内（「通信」53 号）および予稿集の送付費用は未払いであるが、請求金額が未定のため決算には反映していない。

【全国大会 特別会計】

	2021 年度予算	2021 年度決算
前期大会繰越金	271,277	271,277
全国大会（第18回大会）	0	0
開催補助（一般会計から）	40,000	40,000
参加費	0	0
雑収入	0	0
＜収入合計＞	311,277	311,277
会場費	0	0
講師等謝金・旅費	20,000	20,000
アルバイト代	0	0
諸雑費	10,000	0
予備費	10,000	0
＜支出合計＞	40,000	20,000
＜次期大会・繰越金＞	271,277	291,277

【シリーズ本 特別会計】

	2021 年度予算	2021 年度決算
前期繰越金	137,929	137,929
シリーズ本売り上げ	49,500	0
第8号：学会売上	4,500	0
同：晃陽書房還元	0	0
第9号：学会売上	45,000	0
同：晃陽書房還元	0	0
雑収入	10,000	0
＜収入合計＞	197,429	137,929
シリーズ本・継続企画	310,000	0
編集・印刷費	300,000	0
送料	10,000	0
予備費	10,000	0
＜支出合計＞	320,000	0
＜次期繰越金＞	△ 122,571	137,929

【貸借対照表（2022年2月25日現在）】

資産		負債	
現金	4,891	次期繰越金	1,845,880
郵便振替口座	1,840,989		
合計	1,845,880	合計	1,845,880

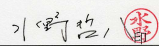
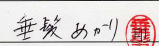
2022年3月1日

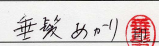
監査報告書

大学評価学会 御中

大学評価学会の2021年度(2021年3月1日～2022年2月25日)決算について本日、監査いたしました。帳簿、証憑はすべて正確に処理されていることを認めます。
なお、引き続き、学会費の徴収に格段の努力をいただきますようお願いいたします。

以上

会計監査人  

会計監査人  

2022 年度予算案 (2022 年 2 月 26 日～2023 年 2 月 28 日)

【一般会計】

	2022 年度予算	2021 年度決算	2021 年度予算
前期繰越金	1,416,674	1,256,995	1,256,995
会 費 1)	690,000	743,000	690,000
2022 年度会費	600,000	743,000	600,000
過年度会費	90,000		90,000
年報販売売上	100,000	93,600	100,000
雑収入	1,000	0	1,000
＜収入合計＞	2,207,674	2,093,595	2,047,995
全国大会 (第 19 回大会)	150,000	66,579	70,000
開催補助 (特別会計へ)	120,000	40,000	40,000
予稿集印刷 2)	0	0	0
大会案内印刷・送付費 (20 大会)	30,000	26,579	30,000
年 報 (第 18 号)	425,000	383,904	400,000
編集・印刷費	400,000	365,728	375,000
送付費 (封筒等含む)	25,000	18,176	25,000
学会通信 (年 2 回)	100,000	48,276	100,000
印刷費	60,000	45,716	60,000
送付費 (封筒等含む) 3)	40,000	2,560	40,000
研究例会 (年 2 回)	50,000	10,000	50,000
会場費他	45,000	10,000	45,000
湯茶等	5,000	0	5,000
理事会会議費	100,000	0	100,000
事務費・事務用品費 4)	30,000	34,372	50,000
支払手数料	20,000	16,730	22,000
委託費	10,000	14,000	50,000
会費 (教育関連学会連絡協議会)	10,000	10,000	10,000
予備費	100,000	93,060	100,000
＜支出合計＞	995,000	676,921	952,000
＜次期繰越金＞	1,212,674	1,416,674	1,095,995

注 1) 2022 年度会費は、@6,000×80 人、@3,000×40 人で算出した。過年度会費は、@6,000×10 人、@3,000×10 人で算出した。2022 年 3 月現在の会員数は 152 人 (うち協力会員は 7 人) である。

2) 第 19 回大会の予稿集に係る費用は、2021 年度に支出済みである。

3) 「通信」53 号 (2022 年 2 月) の送付料を含む。

4) 事務費・事務用品費には、通信費、学会ホームページのサーバー使用料などを含む。

【全国大会 特別会計】

	2022 年度予算	2021 年度決算	2021 年度予算
前期大会繰越金	291,277	271,277	271,277
全国大会（第19回大会）	0	0	0
開催補助（一般会計から）	120,000	40,000	40,000
参加費	0	0	0
雑収入	15,000	0	0
＜収入合計＞	426,277	311,277	311,277
会場費	0	0	0
講師等 謝金・旅費	35,000	20,000	20,000
アルバイト代	0	0	0
諸雑費	100,000	0	10,000
予備費	10,000	0	10,000
＜支出合計＞	145,000	20,000	40,000
＜次期大会・繰越金＞	281,277	291,277	271,277

注 1) 第19回全国大会（2022年3月5日、6日）はオンラインでの開催である。会場使用料は不要であるが、諸費用としての支出が予定されている（諸雑費で計上分）。

2) 雑収入は課題研究分科会の講師料を受け入れする（同額を講師料として支払う）ものである。

【シリーズ本 特別会計】

	2022 年度予算	2021 年度決算	2021 年度予算
前期繰越金	137,929	137,929	137,929
シリーズ本売上	49,500	0	49,500
第8号：学会売上 1)	4,500	0	4,500
同：晃陽書房還元	0	0	0
第9号：学会売上 2)	45,000	0	45,000
同：晃陽書房還元	0	0	0
雑収入 3)	10,000	0	10,000
＜収入合計＞	197,429	137,929	197,429
シリーズ本・継続企画	310,000	0	310,000
編集・印刷費	300,000	0	300,000
送料	10,000	0	10,000
予備費	10,000	0	10,000
＜支出合計＞	320,000	0	320,000
＜次期繰越金＞	△ 122,571	137,929	△ 122,571

注 1) 第8号の学会売上は、3部（頒価@1,500）を見込んだ。

2) 第9号の学会売上は、30部（頒価@1,500）を見込んだ。

3) 雑収入は、第7号までの販売を見込んだ。

理 事 会 報 告

第Ⅷ期第4理事会

日 時：2022年3月1日（火） 17時～19時

場 所：Zoomによるオンライン開催

出席者：岡山、細川、光本、安東、石渡、菊池、小池、小山、瀧本、中山、深野、藤原、松下、村上、米津、西垣（16名）

【報告事項】

1. 学会広報のあり方に関する委員会からの報告
2. 学会年報編集委員会からの報告
3. シリーズ本第9巻の編集委員会からの報告
4. 学会通信第53号の発行について
5. 学会事務局からの報告（予算執行状況、学会活動など）
6. その他
 - (1) 第26期日本学術会議会員候補者の選考方針（原案）に係る意見について
 - (2) 第19回大会の準備状況について
 - (3) 「『大学ファンド』のための大学評価学会からの提案」について

【議 題】

1. 会員の異動について
2. 田中昌人記念学会賞の受賞者について
3. 第19回全国大会の記録について
4. 学会通信第54号の発行について
5. 2021年度決算および2022年度予算について
6. 2022年度活動方針案について
7. 第19回会員総会の議案および運営について
8. 第20回全国大会について

ロシアのウクライナ「侵攻」に強く抗議し、即時撤退を求める

学術の発展は平和な社会でこそ可能となり、学術の発展は平和な社会に寄与するものである。ロシアによるウクライナへの「侵攻」は、平和を希求する国際社会に対する暴力でもある。学術の発展を願い、大学評価を研究する我々は、ロシア政府に強く抗議するとともに即時にウクライナから撤退することを求める。

2022 年 3 月 3 日

岡山 茂、細川 孝（大学評価学会共同代表）

「大学ファンド」のための大学評価学会からの提案

どうして大学に自治が必要なのか。それはそこに蓄積された知とそこで生産される知が、特定の国や組織や個人を利するものであってはならないからである。

人類は、地上に生きるすべての生物を天変地異や人災（戦争、飢饉、疫病、温暖化、プラスチックごみ…）から守るための知を蓄積してきたし、これからも蓄積するだろう。宗教、学問、技術、芸術（それらを総称して「文化」と呼ぼう）は、そうした知の結晶である。しかし「文化」は未完成である。自然はあいかわらず制御不能であり、人類のなかにもいつ何をしでかすかわからない独裁的な指導者があらわれる。だから「文化」を守っていくための、なにものにもひもづけられない機関（それを「大学」と呼ぼう）が必要なのである。

「大学ファンド」はそうした「大学」ための「ファンド」（土地＝基金）となるだろうか。大学、企業、銀行がすべからず寄付をし、大学に恩義のある個人も遺産の一部か全部を遺贈するような、枯渇することのないほんものの「ファンド」となるだろうか。人類史的にみると、「大学」は（そこで学ぶ多くの学生と同じように）未成年である。しかしそこには人類と地球の未来がかかっている。10 兆円もの規模のファンドであるならば、いくつかの特定の大学を支援するよりも、「大学」で学ぼうとするすべての学生の学費と生活費を支援するべきではないのか。もとより人文・社会科学系の学生は多く、大学も彼らの納付金によって支えられている。「大学ファンド」は研究とイノベーションばかりでなく、教育にも配慮したものであるべきだ。

2022 年 3 月 3 日

岡山 茂、細川 孝（大学評価学会共同代表）

田中昌人記念学会賞を受賞して

このたびは、田中昌人記念学会賞をいただき、まことにありがとうございました。選考委員の皆さま、ご指導いただいた先生方には改めてお礼申し上げます。受賞の対象となった、吉住隆弘・川口洋誉・鈴木晶子編著『子どもの貧困と地域の連携・協働―〈学校のつながり〉から考える支援―』（明石書店、2019年）は、大学評価や青年期の発達保障について取り上げているものではありませんでしたので、受賞のお知らせをいただいたときは大変驚きましたが、みなさまからの暖かいエールと思い、ありがたく頂戴しました。

同書は吉住先生（中京大学・臨床心理学）との科研での研究成果であり、それぞれの支援実践のフィールドをもつ研究者に加え、実践者のみなさんの論稿も納められており、子どもの置かれたリアルな実態とそれに真っ向向き合う支援現場の熱意と葛藤が描き出されています。その中で、私の執筆章（第2、8章）では、愛知県瀬戸市での学習支援（瀬戸市学習教室ピース）の実践をベースにして、チーム学校に加わる専門職の不安定な雇用を踏まえ、教職員定数の改善を含めた公教育の条件整備の課題や、学習支援事業の拡大の新自由主義的性格とその脱却の必要についてそれぞれ指摘しています。

学生たちと自治的な経験を積みながら、社会問題に向き合う場を作りたいと思い、2015年に瀬戸市での学習支援をはじめました。今では、保護者への支援や行政とのやりとりを除いて、支援現場の運営は学生たち主体で動いています。それは、子どもたちとの信頼関係を築くなかで、子どもたちの困りごとを受け止め、支援してきた学生たちの自信の表れだと思っています。青年の発達保障研究としても、こうした学生たちの発達を捉え、支援や自治の中での発達のあり方を分析・検討する機会としたいと思います。今後も身を引き締めて励みたく存じます。

川口 洋誉（第7回 田中昌人記念学会賞受賞者）

第62回研究会の開催について

日時：9月4日（日曜） Zoomによるオンライン開催

午前：10時30分～11時45分 午後：13時30分～16時15分

<午前の部>

報告：伊藤 彰浩（西南学院大学）「学校法人ガバナンス改革と評議員会の機能」

コメント：堀 雅晴（立命館大学名誉教授）

進行：細川 孝（龍谷大学）

<午後の部>

報告1：山本 健慈（大阪観光大学）「集大成としての大学の再建」

報告2：光本 滋（北海道大学）「国際卓越研究大学と大学評価論の課題」

進行：西垣 順子（大阪公立大学）

★ 参加には事前申し込みが必要です（午前のみ、午後のみ参加でも結構です）。こちらの申し込

みフォームから、9月1日木曜日までにお申し込みください。9月2日金曜日中に、Zoomアドレスなどをお送りします。

申し込みフォーム：<https://forms.office.com/r/BWfC3NSpzh>



大学評価学会第20回大会について（第一次案内）

日程：2023年3月4日（土）～5日（日）

場所：岡山理科大学（岡山キャンパスを予定）

概要：自由研究発表、ポスター発表、総会、シンポジウム、課題研究（予定）

※COVID-19感染の状況によっては、第20回大会についてもオンライン（ハイブリッドを含む）での開催を視野に入れて準備を進めてまいります。今後、理事会・大会実行委員会において、実施方法について検討を進め、随時学科ウェブサイトにおいて情報提供を行います。

＜自由研究発表（口頭発表）およびポスター発表の申し込みについて＞

大会期間中、会員の「自由研究発表」・「ポスターセッション」を開催します。会員の皆様にはふるってお申し込みください。申し込み方法の詳細は、大学評価学会年報の発送時に同封の案内もしくは学会ウェブサイトでご確認ください。第20回大会情報を随時更新してまいります。

なお、入会手続きをすれば発表が可能です。非会員の方で発表希望の方は、学会事務局（hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）までご連絡ください。

【申し込み受付期間】2022年10月1日（土）～11月30日（水）

【想定されるテーマ】大学・学術の果たすべき役割、大学評価や法人経営のあり方、評価書の読み方・読み解き、大学評価・大学教育政策、公立大学問題、センター・附属施設の機能、教職協働の取り組み、FDや学生参画、授業づくりの実践、アクティブ・ラーニング、高大連携・高大接続の現状と課題、学生・青年の発達保障・移行支援、就活・キャリア教育、無償教育の漸進的導入、ジェンダー問題・男女共同参画、多様性と包摂など

【報告要旨集の原稿締め切り】2023年1月31日（火）の予定

【申込先】第20回大会実行委員会事務局 info@aue-web.jp

第 10 回 教育関連学会連絡協議会総会について

教育研究に関する学術交流と相互の連帯を目的として2013年に設立された教育学関連学会連絡協議会には現在72の学協会等が加盟しています。2022年3月12日に57団体（委任出席5団体を含む）が参加して10回目の協議会総会がオンラインで開催されました。総会では1.新規の加盟・退会申請、2.活動報告と会計報告、3.活動方針、の3点について審議され、協議会が主催するシンポジウムのテーマを中心に意見交換が行われました。

（文責：日永 龍彦）

学会ウェブサイトのアドレス変更について

大学評価学会ウェブサイトのアドレス（URL）が <http://aue-web.jp> に変更されました。変更の過程で1ヶ月あまりウェブサイトが閲覧できなくなっていたことで会員の皆さまには大変ご迷惑をおかけしました。アドレス変更に伴い、事務局や年報編集委員会のメールアドレスが以下の通り変更されます。

学会事務局 info@aue-web.jp

年報編集委員会 editor@aue-web.jp

（文責：日永 龍彦）

大学評価学会年報『現代社会と大学評価』第19号への投稿募集

学会年報『現代社会と大学評価』第19号の原稿を募集します。大学評価に関する学術論文、研究ノート、書評、資料紹介などで、未発表のものに限ります。投稿希望者は、8月末日までに、氏名、所属、職名（大学院生の場合は課程、学年など）、住所、電話、Fax、e-mailアドレス、論文・書評などの別、予定のタイトル・枚数を書いて、年報編集委員会（editor@aue-web.jp）までお申し込みください。また、完成原稿は、投稿規定並びに執筆要項を熟読の上11月末日までに年報編集委員会（editor@aue-web.jp）までお送りください。

（文責：水谷 勇 年報編集委員長）

【大学評価学会の日誌】

2022年2月24日（木）～28日（月） 会計監査（持ち回り）
2022年3月1日（火） 第VIII期第4回理事会
2022年3月5日（土）・6日（日）第19回全国大会（龍谷大学、ハイブリッド開催）
3月5日（土）第19回会員総会（ ” ” ）
2022年3月12日 教育学関連学会連絡協議会第10回総会（日永副代表が出席）
<予定>
2022年8月27日（土） 第VIII期第5回理事会
9月4日（日） 第62回研究会
2022年11月頃（予定） 第VIII期第6回理事会、第62回研究会
2023年3月4日（土）、5日（日）第20回全国大会（岡山理科大学）

献 本

渡部昭男著『改訂新版 障がいのある子の就学・進学ガイドブック: 複数の目で子どもを育み共に育ちあう教育へ』日本標準、2022年



学会年会費の請求について

2022年度（2022年3月1日～2023年2月28日）の学会年会費の請求書を同封させていただいております。過年度分が未納の方につきましては、2022年度分とあわせてお支払いいただきますようお願いいたします。

編集・発行：大学評価学会（URL: info@aue-web.jp）

〈学会事務局〉 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪公立大学 高等教育研究開発センター 西垣研究室

Tel/Fax:06-6605-2128 E-mail: nishigaki@omu.ac.jp

〈共同事務局〉 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学 大学院教育発達科学研究科 石井研究室

E-mail: ishii.takuji.n2@f.mail.nagoya-u.ac.jp

〈事務連絡先〉 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

龍谷大学 経営学部 細川研究室

Tel/Fax:075(645)8634 E-mail: hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp

〈会費納入先〉 郵便振替口座番号：00950-4-296005 名称：大学評価学会